

平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

<p>連携型中高一貫教育及び総合学科教育を基盤に、小規模校のメリットを最大限に活かし、自他ともに尊重し自らを律し理想にチャレンジする人材、将来の国際社会や地域の魅力化・活性化を担うことのできるグローバル人材の育成をめざします。</p> <p>(1)「確かな学力の育成」 社会人として求められる基本的な知識・技能の定着を図るとともに、課題解決のための思考力・判断力・表現力などを身に付け、主体的に学習に取り組む態度を育む。</p> <p>(2)「人間関係力の育成」 規律・規範意識に富んだ心身の健やかな成長を支援するとともに、お互いの違いを認め相互に協働して活動を継続する力、課題解決に向けた実践力を育む。</p> <p>(3)「キャリア意識の形成」 多様な生き方を学び豊かな勤労観や職業観を身に付けるとともに、将来の夢や目標、自らの理想を明確にし、責任も持って選択・決定する力やチャレンジ精神を育む。</p> <p>(4)「教育コミュニティの構築」 地域や保護者の期待や要望をふまえ、その達成に向けて学校・家庭・行政・地域が一体となって教育活動を推進するため、有機的な教育コミュニティを構築する。</p>
--

2 中期的目標

<p>(1)「確かな学力の育成」への取組み</p> <p>ア コンピテンシーを意識する。 ・教職員が生徒に身につけさせたいコンピテンシーを共有し、日々の教科指導や課外の教育活動を通して、具体的な指導実践にあたる。〔コンピテンシーを意識した授業 25%〕</p> <p>イ 自主的に学ぶ態度や習慣を身に付けさせ、生徒一人ひとりの学力を向上させる。 ・タブレットパソコンやプロジェクターなど、ICT機器を活用する教育方法を研究し、学ぶ意欲と学力の向上につなげる。〔ICTを活用した実践事例の共有 25 項目〕</p> <p>ウ 生徒が主体的・能動的に学ぶ機会を積極的に設定するとともに、生徒一人ひとりに応じた到達点を図るため、観点別評価を導入する。〔実施する科目 50%〕</p> <p>エ 教員の授業力を向上させる。 ・評価や授業方法などの校内及び校外研修に積極的に参加するとともに、「生徒による授業評価」などを活用して授業改善や授業力向上を図る。〔授業への意欲・達成感 3.40〕</p> <p>オ 教育実践を普遍化し普及させる。 ・国内外の大学や国際協力機関、地域企業等と連携し、課題発見力や情報編集力、課題解決力などを育成するSGH事業を充実させ、普遍的な教育課程として提案する。</p> <p>(2)「人間関係力の育成」への取組み</p> <p>ア 規律・規範意識を身に付け、自らで律する心を育成する。 ・教職員が一丸となり、欠席・遅刻、服装・頭髪、授業規律、携帯電話モラルなどに対する指導を徹底し、ひいては生徒自らが自発的に行動できるように育成する。</p> <p>イ 教育相談・いじめ防止体制・合理的配慮を確立する。 ・教員のカウンセリングスキルを向上させるための職員研修を実施し、教育相談を細かく行うことで、中退防止や課題を抱える生徒に対する細やかな支援・指導を行う。</p> <p>ウ いじめ対策委員会を中心に、学校全体でいじめの事象の発生・深刻化を防ぎ、いじめを許さない生徒の意識、他者を尊重する人権意識を醸成する。</p> <p>エ 支援教育コーディネーターを中心に、修学上の配慮を要する生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握し、将来の自立、社会参加をめざした効果的な指導・支援を充実させる。</p> <p>オ 多文化理解や国際理解に係る教育を充実する。 ・ユネスコスクールのネットワークや国際協力団体等との連携・交流を積極的に活用し、多文化共生の意識や持続可能開発のための教育を充実させる。</p> <p>カ 協働作業を通して課題解決を実践する。 ・利害の一致しない多様な他者と、目標を共有して協働作業に取り組む成果を生み出す体験を通して、グローバルな視点から地域の課題を発見し解決できる力を育む。</p> <p>(3)「キャリア意識の形成」への取組み</p> <p>ア 生き方を模索し、将来に向けた行程表を意識させる。 ・多様な生き方を学び、責任をもって選択し結果を検討する経験を通して、再度自分の理想とする人生設計を描かせることで、意欲的な進路意識を醸成する。</p> <p>イ 生徒の希望する進路の実現を達成する。 ・学力生活実態調査など具体的なデータをふまえ、就職指導や進学指導を充実させることにより、個に応じた希望進路の実現につなげる。〔大学希望者の有名大学進学 50%〕</p> <p>(4)「教育コミュニティ構築」への取組み</p> <p>ア コミュニティスクールをふまえた、小中高一貫教育を構築する。 ・能勢地域のこれまでの教育実践をふまえ、小中高一貫教育の在り方を検討し実践を継続するとともに、コミュニティスクールとして地域と連携した教育活動を展開する。</p> <p>イ 学校・家庭・行政・地域が一体となった教育コミュニティを活用する。 ・地域住民や事業所と連携することで、農業の六次産業化や福祉事業への参画を図り、地域における高校の存在意義の確認、町の活性化や地域からの信頼づくりにつなげる。</p>

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 2 年 1 月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>1. 生徒結果より 「命の大切さや人権、社会のルールについて学ぶ」(86% 94%)、「働くことの大切さや進学する意義を理解している」(85% 91%)、「学校行事は楽しく行える」(70% 81%)、「入学して良かった」(70% 76%)と、学校生活全般については向上が見られたが、「私語無く集中して授業を受ける」(80% 67%)と授業に取り組む姿勢には課題が残っている。</p> <p>2. 保護者結果より 「命の大切さや人権、社会のルールを守る態度を育てる」(70% 64%)、「遅刻等、基本的生活習慣を注意している」(91% 84%)と、生活指導面の協力体制に詰め甘さがあるが、「保護者への連絡をきめ細かく行っている」(56% 63%)、「地域から信頼される学校である」(60% 71%)、「入学させて良かった」(80% 85%)と、学校教育全般に関しては向上している。</p> <p>3. 教職員結果より 全般的に向上傾向にあり、特に「遅刻等、基本的生活習慣を身に付けさせている」(70% 93%)、「授業を集中して受ける態度を身に付けさせている」(65% 90%)、「いじめ事象に迅速に対応することができている」(69% 90%)「小中高一貫教育は人材育成に役立っている」(30% 53%)が顕著である。</p> <p>4. 全般的に 生徒、保護者、教職員の間で、微妙に受け止め方にズレが生じている部分も散見され、そういった事の相互理解の促進が求められている。</p>	<p>第 1 回 令和元年 7 月 3 日 (授業見学・協議) 【授業見学】農場での授業、小学生の体験でも評価が良い、命の大切さを伝えることも大事だ。 【協議】ネット教室は魅力的。地域の方にも色んな繋がりがもてる学校というイメージを。地域の大人も一緒に、中・高の部活動を盛り上げていく取り組みができれば。</p> <p>第 2 回 令和元年 12 月 4 日 (授業見学・協議) 【授業見学】授業に集中し、対話的な授業が多くみられて、とてもよい雰囲気だった。 【協議】授業アンケートのねらいを周知して、相互に修正を図り続けられたら尚よい。今後も、生徒一人ひとりをよく見て、個々の良い点を伸ばして欲しい。豊中本校との交流が、SGHだけでなく、PTA等も含めてもっと広がればよい。高校に来ている留学生を、もっと知らせ地域等でも活用してもらいたい。</p> <p>第 3 回 令和 2 年 3 月 9 日 (協議) 【協議】家庭での予習、特に本や教科書の文字情報の読み込みが必要だ。 「なぜ勉強するのか」の意識付けが低いと考えられ、その点からの支援がいる。能勢の子どもはスマホ携帯の使用率が高い傾向にあるから、ルール化が必要だ。保護者の思う勉強と、今必要とされる学びにズレはあるから、その補正は必要だ。中 3 ではなく、もっと早い段階から、能勢高校の取り組みへの理解促進が必要だ。高 1 は小中学校の統廃合の影響も残り、メンタルな面のサポートが必要かも。小中高一貫教育を含め、先生方の自己評価が高まったことは喜ばしい。町との関係性を高め、長期的な視点で、地元の担い手を作る学校になってほしい。地域の学校の意義を前面に出し、大阪府にとっても大切な高校と思われるように。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	<p>コンピテンシーを意識する。</p> <p>自主的に学ぶ態度や習慣を身に付けさせ、生徒一人ひとりの学力を向上させる。</p> <p>教員の授業力を向上させる。</p> <p>教育実践を普遍化し普及させる。</p>	<p>ア コンピテンシーに関する共通理解を図るため、研修会を実施するとともに、そのことを授業の中で意識的に問いかけていく。</p> <p>イ ICT機器を活用した授業方法を研究し、教材の共有化を図って勤務軽減を図ると共に、相互の授業見学等を通して研鑽し実践する。</p> <p>ウ インターネットによる映像授業や放課後の講習・補習など、効果的な学習方法や指導方法を実践する。また、習熟度別学習や実技実習科目等では、評価方法についての研究を行い、観点別評価を試行する。</p> <p>エ 授業のスタンダードデザインの共有を図るとともに、生徒による授業評価や授業公開を活用し、各教科・学年・分掌等が一体となって授業改善に取り組む。</p> <p>オ S G Hの研究開発において、各教科の取組みのなかに、大学や企業など外部の団体や講師との連携した活動を充実させる。また、グローバルな視点から、情報を収集し地域の課題を把握する力の育成を重点的に実施する。</p>	<p>ア・新学習指導要領に関する研修会を実施する。</p> <p>・教科指導の中で、コンピテンシーを問いかける取組みを実施する。</p> <p>イ・ICT機器を活用した優れた取組みの共有25項目以上。それらを相互に活用し、教科指導の取組みを充実させる。</p> <p>ウ・インターネットによる映像授業の利用者を全生徒の30%以上。</p> <p>・観点別評価の試行割合を、全科目の30%以上。</p> <p>・生徒の授業評価で「予習・復習ができています」項目の数値が3.20以上。</p> <p>エ・授業見学・交流の機会を、教員一人あたり年5回設ける。</p> <p>・授業のスタンダードデザインに向けた取組み実践を共有する。</p> <p>・生徒による授業評価の全体の数値が、3.30以上。</p> <p>オ・外部の団体や講師と連携した取組みを、各教科1回実施する。</p> <p>・世界情勢や地方活性のニュースに関する関心度を高め、教科の取組みとして展開する。</p>	<p>ア・新指導要領に関する校内での伝達研修は実施できたが、そこで求められる力を、教科指導の中で意識的に確認する作業はできなかった。()</p> <p>イ・教材の蓄積は教科によって偏りが大きく、個人作業に頼った感がある。「総合的な学習の時間」については、少し共有化ができた。()</p> <p>ウ・映像や画像などの視聴覚教材の活用やワークショップ形式などの学習方法を、大半の教員が実践できた。一方で、インターネットを活用した個別指導は15%程度の生徒に留まり、観点別評価の施行は「総合的な学習の時間」など一部の科目でしか実践できなかった。生徒の授業評価で「予習・復習ができています」項目の数値は3.08。()</p> <p>エ・地元小・中・高の交流も含めて、授業見学の場は、4～5回実践することができた。また、ホームルーム教室等の運営では、スタンダード化が図られつつある。生徒による授業評価の全体の数値は、3.30。()</p> <p>オ・外部講師等による連携授業は、教科間のばらつきが大きく、複数回実践できた教科もあれば、今年度実践に至らなかった教科もある。ただ、いずれの教科も、生徒の視野を広げるための刺激は意識できていた。()</p>
2 人間関係力の育成	<p>規律・規範意識を身に付け、自らで律する心を育成する。</p> <p>教育相談・いじめ防止体制・合理的配慮を確立する。</p> <p>多文化理解や国際理解に係る教育を充実する。</p> <p>協働作業を通して課題解決を実践する。</p>	<p>ア 欠席・遅刻、服装・頭髪、授業規律、携帯電話モラルなどに関する指導を徹底する。</p> <p>イ スクールカウンセラーや地域の福祉部署等と連携して、様々な課題を抱える生徒に対する、情報共有やケース会議を適宜行い、細やかな支援・指導を行う。</p> <p>ウ 関係者が「いじめ防止基本方針」を共通理解するとともに、いじめ対策委員会の活動が活性化しよう組織体制を整備する。また、人権ホームルームの充実を図る。</p> <p>エ 配慮を要する生徒への合理的配慮についての研修を実施するとともに、支援教育コーディネーターを中心として、実践における共通理解を図り、取組みを般化する。</p> <p>オ ユネスコ国際交流委員会やユネスコクラブの活動の活性化とともに、マレーシア修学旅行での取組みの充実を図る。</p> <p>カ グループで与えられた課題に取組み、役割分担を明確にして責任をもって活動に参加し、一定の成果を発表する取組みを実践する。</p>	<p>ア・遅刻者数の前年度比10%減。</p> <p>・携帯電話モラルの不足による人間関係トラブルゼロをめざす。</p> <p>イ・地域の福祉部署と連携して研修を実施する。</p> <p>・情報共有により、事前対応に努め、課題を抱えたままの長期欠席者や退学者ゼロをめざす。</p> <p>ウ・年2回実施する「いじめアンケート」を改善して活用し、事象の早期把握に努める。</p> <p>・人権侵害事象の把握も含めて、組織体制を整備する。</p> <p>・年3回の人権学習を実施。</p> <p>エ・合理的配慮に関する共通理解を図る研修を実施する。</p> <p>・個別の支援・指導計画等を検討する会議を定期的に開催し、状況の共通理解に努める。</p> <p>オ・コミュニケーションツールとしての英語の必要度を感じる生徒の割合80%以上。</p> <p>・将来国際的な課題に関わる仕事が見たい生徒の割合40%以上。</p> <p>カ・学習成果の発表会を年度末に1回行う。</p>	<p>ア・学校遅刻は約4割減少、業間遅刻は変わらず。人間関係のトラブルはなし。()</p> <p>イ・スクールカウンセラーによる研修や地域S Wとの情報交流も行った。学校における学習意欲の低下が主要因ではあるが、退学者ゼロには至らなかった。()</p> <p>ウ・「いじめアンケート」は2回実施。把握した事案についても、担任や担当で組織として対応できた。年3回の人権ホームルーム(進路保障・e-net 安心講座・拉致問題)も実施できた。()</p> <p>エ・合理的配慮に関する研修を1回実施し、概念を再確認することはできた。個別の指導計画の策定については、意見の交換もできているが十分とはいえない。()</p> <p>オ・コミュニケーションツールとしての英語の必要度を感じる生徒の割合76%。将来国際的な課題に関わる仕事が見たい生徒の割合37%。()</p> <p>カ・1年間の系列での学習成果等を中心に、学習発表会を開催できた。()</p>
3 キャリア意識の形成	<p>生き方を模索し、将来に向けた行程表を意識させる。</p> <p>生徒の希望する進路の実現を達成する。</p>	<p>ア 「総合的な学習の時間」に加え、各教科指導においても、多様な方々の生き方をヒントに、意識的にどう生きるのかを問いかけていく。</p> <p>イ 進路希望の実現に向けて、進路L H Rに加え教科指導との連動性を高める。</p> <p>ウ 外部講師等も活用してキャリア指導講座を継続し、進路指導体制の充実を図る。</p>	<p>ア・学校教育自己診断でキャリア形成を向上させた生徒の割合が85%以上。</p> <p>・教科指導の中で、生き方を問いかける取組みを実施する。</p> <p>イ・進路L H Rを1・2学期に各3回実施する。</p> <p>ウ・卒業生全員の進路を決定。</p>	<p>ア・「総合的な学習の時間」を中心に外部講師による講義も含めて、生き方の選択肢を具体化することができ、キャリア形成を向上させた生徒の割合91%。()</p> <p>イ・進路ロングホームルームを、計画的に配置しながら実施することができた。()</p> <p>ウ・配慮を要する生徒を含め、進路が未決定の者が、全体の12%残っている。()</p>
4 教育コミュニティの構築	<p>コミュニティスクールをふまえた、小中高一貫教育を構築する。</p> <p>学校・家庭・行政・地域が一体となった教育コミュニティを活用する。</p>	<p>ア 能勢町教委とともに、小中高の校長会や一貫教育事務局会で、一貫教育の骨組みを再構築する。</p> <p>イ 各種ボランティア活動等に生徒が主体的に参加・協力するとともに、小中学校への授業協力や合同部活動、学童やアフタースクールでの連携、福祉施設等との協力、地域事業所と連携した商品開発等の企画の具体化を図る。</p> <p>ウ ニュースレターの発行やHPの更新など学校情報を積極的に発信する。</p> <p>エ 能勢町の学校協力人材バンクの活用を具体化する。また、能勢町の地域と学校教育を結ぶための地域学校協働本部等に協力をすると共に、本校の学校運営協議会を有効な活動としていく。</p>	<p>ア・取組みの到達点を再確認し、校長会や事務局会を毎月定期的に開催する。</p> <p>イ・ボランティア等への生徒参加延べ数が80人。</p> <p>・小中学校等の学校関係団体と連携した取組みを、年間25回開催。(3学年で)</p> <p>・能勢高校ブランド加工品の1品追加。福祉施設や各種事業所との連携授業を1.5倍に増加。</p> <p>ウ・学校教育自己診断で「HPを通じて学校情報を得ている」生徒・保護者の割合が50%以上。</p> <p>・町報等での広報活動を継続する。</p> <p>エ・人材バンクに登録された方の教育活動への協力を、年間3回お願いする。</p> <p>・能勢町の地域と学校教育を結ぶ活動に積極的に関わる。</p>	<p>ア・小中高一貫の事務局会等を定期的に開き、取り組みや意見交換を充実させることができた。()</p> <p>イ・地域のボランティアに参加した生徒は、のべ30名程であったが、小高の交流授業や文化祭での交流・PTA交流会など20回程度開催できた。また地域福祉施設との連携授業や保・幼連携の授業は、のべ20回近くになった。地域の事業所と共に、商品開発にも取り組み、1つの商品開発とワークショップを開催できた。()</p> <p>ウ・ニュースレターや校園だよりなどは定期的に発行できた。「HPを通じて学校情報を得ている」生徒の割合は39%、保護者の割合は52%となり、日常的な活気ある更新求められた。()</p> <p>エ・人材バンクからの外部講師の活用には至らず、地域学校協働本部も設置にならなかった。地域教育協議会のイベントや緑のトラストのイベントは校内で開催できた。()</p>